



令和4年(2022年)9月8日
No.22
豊中市立北条小学校



自分の考えを持ち、伝え合う、協働的な学びのある授業づくり

本校では昨年度まで、「全員が意欲的に参加できる英語の授業づくり」というテーマで英語の授業について研究してきました。

今年度からは「自分の考えを持ち、伝え合う、協働的な学びのある授業づくり」というテーマで研究を進めています。

さまざまな困難や変化に対応しながら家族や友人、地域の人たちと協力しながら、力強く生きていかなければいけない子供たちにとって、どんな教育が必要なのか？

本校でも昨年度末から多くの議論を重ねてきました。その結果、出てきたのが、まず「自分の考えをしっかりと持つ」こと、そして、それを「分かりやすく伝える力」、さらにみんなで力を合わせて学び高め合える「協働的な学び」です。

本年度の重点的取組み

国際理解教育の充実	協働的な学びの充実	キャリア教育の充実
<p><研究主題> 「つながる力」を育てる ～国際理解を通して～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに系統だった学習をめざした指導計画の策定と学習の展開 ・学習内容の充実化をめざした講習会等の検討 	<p><研究主題> 自分の考えを持ち、伝えあう、 協働的な学びのある授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者の考えを理解する ・自分の考えをわかりやすく伝える ・異なる考えを組み合わせ、より深い学びを生み出す 	<p><研究主題> 一人一人の社会的・職業的自立 に向けた、キャリア教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年ごとに重点目標を設定する ・キャリアパスポートの中に反映できる取り組みを計画し、実施する ・年間指導計画の見直し

情報活用能力の育成

日常はもとより、ICT機器の効果的な活用を推進し、指導方法の工夫改善に努め、以下の力を育成する

- ・効果的な情報手段を選んで必要な情報を収集する力
- ・情報を比較し必要とする情報や信用できる情報を選び取る力
- ・受け手に伝わりやすいように表現を工夫して発表したり情報を発信したりする力
- ・土台となる読解力や言語能力

2020年代を通じて実現すべき「令和の日本型教育」の姿として①個別最適な学びと②協働的な学びが挙げられています。(学び通信 No.15 参照)

<協働的な学びとは>

- ・探究的な学習や体験活動等を通じて、子供同士で、あるいは多様な他者と協働。
- ・一人一人のよい点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す。
- ・様々な場面でリアルな体験を通じて学ぶことの重要性が、AI技術が高度に発達するSociety5.0時代にこそ一層高まる。
- ・同一学年・学級はもとより、異学年間の学びや、ICTの活用による空間的・時間的制約を超えた他の学校の子供等との学び合いも大切。

個別最適な学びが、孤立した学びとならないように、協働的な学びとの一体的で充実した取り組みをめざしていきます。

<5年生の実践から>

「地球温暖化による影響について報告しよう。」

・ねらい・・・地球温暖化によりどんな影響が出るか調べて、資料を活用しながら分かりやすく伝える。

研究テーマにせまるために今年度まずは、

- ・話し合いの工夫
- ・タブレットの活用
- ・シンキングツールの活用

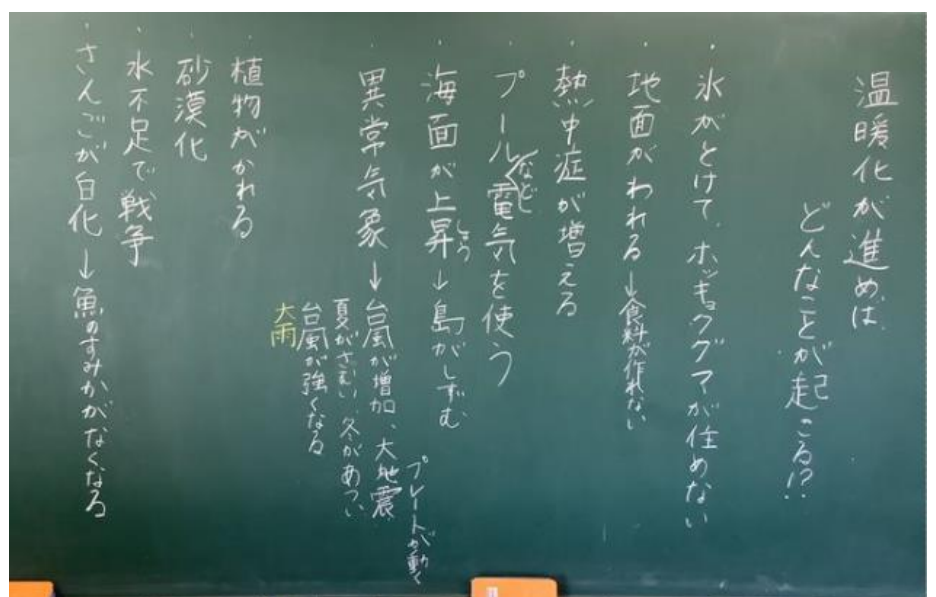
国語の教科書に「環境問題について報告しよう。」という単元があります。また、算数の教科書には、「単位量当たりの大きさで環境を見よう」というページがあり、1人当たりの二酸化炭素の排出量について考えるという学習があります。

地球温暖化による影響はもう無視できず、世界的な大きな問題となっています。

それがどのような影響を及ぼしているのかみんなで考えることにしました。

導入の1時間目には、児童が自分事としてとらえられるような資料を紹介。その上で、どんな問題が起こるのか、ペアトークの後、全体で交流しました。

右の写真が、第1時で出てきた児童の発言内容です。思っ



た以上に出てきました。

それから、子どもたちは、調べて分かったことなどをフィッシュボーン図というシンキングツールにまとめていきました。(右の図)

このシンキングツールは、頭の部分に考え

たいテーマなどを書きます。そして、4つの長方形の部分に、テーマに対する視点、その中に具体例などを書きます。

このようなシンキングツールで一人一人が自分で調べたことをまとめた上で、次にグループで話し合いながらまとめるということをしました。

こうしたプロセスを経ながら、最終的には、自分が何について報告するか決め、資料の収集、資料選び、資料作成、発表原稿作成などを行います。その際、グループで意見交換して、より良い発表になるように話し合いもしていきました。

児童にとって、難しかったかなと思われるのは、発表原稿を作る段階です。

温暖化について調べると、難しい単語が多く出てきます。例えば「膨張」「水蒸気」「飽和」「媒介」などなど。

こうした難しい言葉を使って発表すると、聞いている方は意味が分かりません。

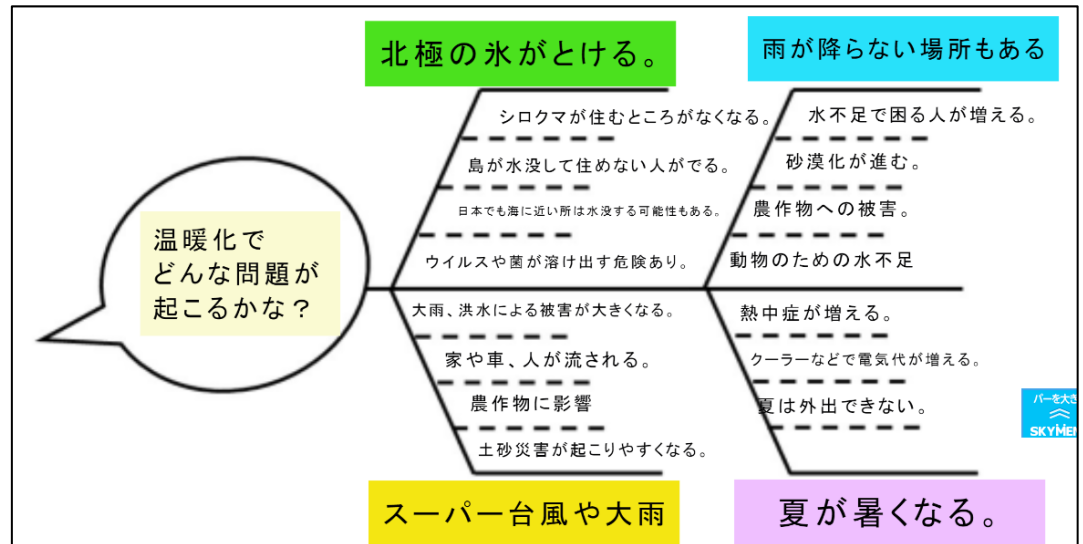
そこで、以下のように、グループ内で聞き合っ、発表原稿を改善するようにしました。

◇グループで原稿を添削する際のポイント

- ①誤字・脱字がないか？
- ②文と文のつながりが妥当か？
- ③言い換えたら分かりやすいのでは？
- ④内容を付け加えたらどうなのか？

最終的には、シンプルプレゼンというアプリを使って、1枚のスライドに2, 3枚の写真と簡単な言葉を使って、1分以内に発表することにしました。(右図)

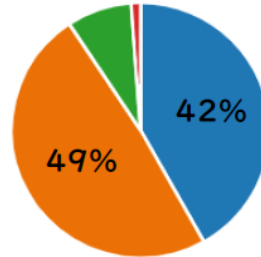
そして、7月6日には、授業参観で保護者のみなさんの前でグループごとに、一人一人が調べたことを発表し、意見交換することができました。



5年アンケートから(2022.7)

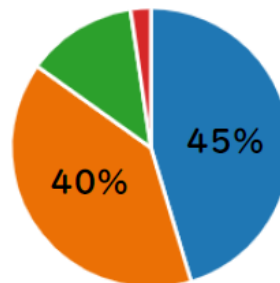
・話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えることができますか。

● できている	36
● どちらかといえばできている	42
● どちらかといえばできていない	7
● できていない	1



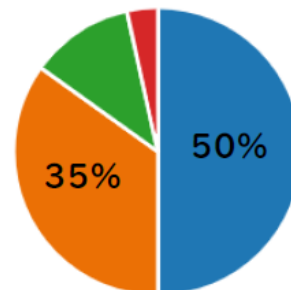
・自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できていますか。

● できている	39.
● どちらかといえばできている	34
● どちらかといえばできていない	11
● できていない	2



・クラスの友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできていますか。

● できている	43
● どちらかといえばできている	30
● どちらかといえばできていない	10
● できていない	3



・授業で話し合い、学んだことをさまざまな教科や日常生活に生かすことができますか。

● できている	30
● どちらかといえばできている	43
● どちらかといえばできていない	10
● できていない	3

